

第6学年〇組 外国語科学習指導案

日 時：令和6年〇月〇日(〇)第〇校時

場 所：6年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

A L T：〇〇 〇〇

1 単元名 Unit 5 Where is it from?

『NEW HORIZON Elementary English Course 6』

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、身の回りのものとその生産国についてのやり取りの表現を扱う。児童は、普段の生活の中で知らず知らずのうちに外国製のものを使ったり身に付けたり、外国産の食材を食べたりしているため、児童にとっては意欲的に取り組みやすいと考える。

本単元では、単元のゴール活動として、「『世界とつながるわたし』について、友達や5年生に紹介しよう」という児童個人で発表する活動を想定している。単元で扱う表現や語彙を活用しながら、オリジナルサンドイッチを考え、伝え合ったり、身近な生産国について、聞き取ったり、紹介したりする活動を行う。身に付けているものや身の回りのもの、自分が大切にしているものなどとその生産国について、既習表現も取り入れながら紹介できるようにしていく。普段の生活の中で、外国の文化や外国人等に触れる機会が少ない本校の児童であるが、今年度はパリオリンピック・パラリンピックが開催され、外国を知る良い機会に恵まれている。また、2学期は、総合的な学習の時間に「ワールドリサーチ」という単元で、外国の生活や文化の違いなどについて学習を進めているため、家庭科の学習に加え、教科横断的に学習に取り組むことができている。

本単元を通して、『世界とつながるわたし』について今までの学習を生かしながら、児童が自分の思いや考えを伝える喜びを味わい、自信をもって伝えることができるように授業構成を工夫していく。そして、今まで以上に世界を身近に感じ、外国とのつながりや結びつきを理解し、地球に生きる仲間として自分のことだけでなく、友達のこと、日本や世界のことに関心・関心を高めることができるようにしていきたい。

(2) 児童観

【外国語に対する児童の意識調査結果】 調査実施日 令和6年〇月〇日 調査人数：〇人

①外国語の授業は楽しいですか。

楽しい	どちらかといえば楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
14.3%	61.9%	19%	4.8%

②外国語の学習に進んで参加していますか。

進んで参加している	どちらかといえば 進んで参加している	どちらかといえば 進んで参加していない	進んで参加してい ない
23.8%	61.9%	14.3%	0%

③外国語の学習は、大切だと思いますか。

とても大切	まあまあ大切	あまり大切ではない	大切ではない
66.7%	28.5%	0%	4.8%

④英語を聞くことは好きですか。

とても好き	どちらかといえば好き	あまり好きではない	好きではない
19%	47.7%	19%	14.3%

⑤英語を話すこと〔やり取り〕は好きですか。

とても好き	どちらかといえば好き	あまり好きではない	好きではない
9.5%	33.3%	28.6%	28.6%

⑥英語を話すこと〔発表〕は好きですか。

とても好き	どちらかといえば好き	あまり好きではない	好きではない
0%	19%	38.1%	42.9%

⑦英語を書くことは好きですか。

とても好き	どちらかといえば好き	あまり好きではない	好きではない
19%	47.6%	28.6%	4.8%

本学級の児童は、これまで3年間外国語活動・外国語科を通して、外国語の語句や表現に触れ、外国語の音声に慣れ親しんできた。しかし、1学年の頃から単級で人間関係が固定化されており、周りの目を気にして、クラス全体の前では発言を躊躇したり、なかなか自分の思いや考えを表現したりできない児童もいる。そのため、母語ではない英語を使って、伝え合ったり発表したりすることに自信がない児童が一定数いる。上記の意識調査結果からも、外国語に対して苦手意識がある児童も少なくないことが伺える。

このような児童の実態から、話すこと〔発表〕については、1学期から発表形態を工夫し、少人数グループ(5～6人)内での発表や、事前に録画して児童が納得したものを全体に流す、クラス全体の前で発表等、様々な形態で行ってきた。徐々にではあるが、相手を意識して伝え合ったり、発表したりすることができるようになってきている。

また、上記の調査の中で、クラスの95.2%の児童が、「外国語の学習が、『大切』『どちらかといえば大切』と考えていることが分かった。中学校に向けても、小学校段階で音声でのインプットを大切に、児童が自分の言葉で伝えたい内容を考え、相手意識をもってコミュニケーションを楽しみながら、話を聞いたり、伝え合ったり発表したりする態度を育てたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、次の点に配慮しながら授業を進めていく。

① 十分なインプット量を確保する。

児童に無理に発話を急がせず、言葉の学びの順序を考えて、受信から発信への過程で、教師からのインプット量を意識的に増やす。子供からの日本語での発話を英語で返し、文で言えないときには教師自身のことを肉声で伝えたり、英語の発話に英語で反応を返したりするなど、児童が教師とのやり取りの中で少しずつ語彙や表現、文構造などに気づくようにさせたい。授業構成や学習形態を工夫し、児童の実態を把握しながら、スモールステップでアウトプットを促す。

② 自分の思いや考えを伝え合う活動を取り入れる。

Small Talk で、学習したことをペアや教師に伝えるアウトプットの機会を取り入れる。また、友達とのやり取りの前に ICT 等を活用して、十分に自分で練習する機会を設けることによって、伝え合うことに自信をつけ、次はもっとこうやってみようという意欲にもつなげたい。機械的に単語を覚えたり英文を読んだりするという活動にならないよう、自分の思いや考えを誰かに伝えるという目的意識・相手意識をもって行い、友達や先生と無理なく交流を図れるようにしたい。また、ジェスチャーや表情など非言語コミュニケーションの大切さも伝えたい。

③ 一人一台端末(タブレット)の活用と学習環境の整備

単元の中で、学習支援ツールとしてタブレットを用いた活動を取り入れる。今回、児童は学習者用デジタル教科書と、9月から使い始めたロイロノート、振り返りツールとしてGoogle Formsを活用する。語彙や表現の復習・確認や、児童が単元ゴールの活動に向けて自分の伝えたいことをメモしたり、考えを整理したりする活動、または動画を視聴・録画する際に用いる。児童に過度な負担をかけることなく、少しでも自信をもち、友達とのやり取りや発表につながるように活用する。また、学習規律(話の聞き方・話し方／タブレット使用時のルール等)、学習環境(ICTの活用や掲示物等)を整え、教師からの機を捉えたフィードバックにより、児童が安心して学習に取り組めるようにする。

④ 振り返りの工夫

今回、Google Formsと振り返りカードの併用を通して、教師が児童の学習状況を把握する。友達や先生の発表から良い表現に気づいた児童や成長の見られる児童を称賛したり、児童の困り感を学級全体で共有したりすることで児童の意欲を高め、英語でコミュニケーションを図る楽しさ、伝わる喜びを味わえるようにする。

3 研究課題との関わり

(1) 研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(2) 研究の視点

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり
～外国語科の「見方・考え方」を働かせた学習活動の充実～

(3) 研究課題解決のための仮説と手立て

仮説Ⅰ 目的・場面・状況を明確にした必然性のある言語活動を設定すれば、児童が本当に言いたいことを伝え合えるだろう。

手立て① 普段目にしているもの、普段食べているものなど児童にとって身近な話題から導入することで自分事として捉え、意欲的に本時または単元のゴールを意識してやり取りができるようにする。

手立て② 自分が伝えたい内容によりふさわしい英語表現になるよう、中間指導を充実させる。

仮説Ⅱ 既習事項を活用したり、学んだことを考えたり整理する時間(My Time)を確保することで児童の思考を深めることができるだろう。

手立て① タブレット PC で学習支援ソフト(ロイロノート)を使い、自分が使う表現をメモしたり、本当に言いたいことを書き留めたり等、情報を自分で整理できるようにする。

手立て② Google Forms のアンケート機能を活用し、児童自身が自分の取り組みをメタ認知することで、見通しをもち、英語を使ってコミュニケーションを図る意欲を高められるようにする。

仮説Ⅲ 自己効力感を高める学級づくり・授業づくりを行えば、どんな課題にも積極的に挑戦し、最後まであきらめることなく取り組むことができるだろう。。

手立て① 最後までやり遂げ、「達成することができた」という経験をもたせる。

手立て② 友達の成功体験を観察させる。

手立て③ 周囲からの励ましの言葉や褒める言葉をかけあう。

手立て④ お互いが認め合える人間関係を作る。

4 単元の目標

自分たちと世界とのつながりを知るために、身の回りのものの生産国について、聞き取ったり紹介したりすることができる。また、身の回りのものやその生産国について、例文を参考に書いたりすることができる。

5 単元の評価規準

（本単元における「読むこと」については、目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと 聞	〈知識〉①【This is…、It's from…国名 is in 地域、およびその関連語句】について理解している。 〈技能〉②身の回りのものとその生産国についてのやり取りを聞いて、概要を捉える技能を身に付けている。	①自分たちと世界とのつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国についてのやり取りや短い話を聞いて概要を捉えている。	①自分たちと世界とのつながりをよく知るために、日本と世界との交流の歴史などについて聞き取ろうとしている。
やり取り 話すこと 話や	〈知識〉①【同上】について理解している。 〈技能〉②身の回りのものとその生産国について、【同上】を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。		
発表 話すこと 話発	〈知識〉①【同上】について理解している。 〈技能〉②身の回りのものとその生産国について、【同上】を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	①自分たちと世界とのつながりを伝えるために、身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを友達に発表している。	①自分たちと世界とのつながりを伝えるために、身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを発表しようとしている。
書くこと 書	〈知識〉①身の回りのものとその生産国について伝えるための、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を理解している。 〈技能〉②身の回りのものとその生産国について伝える文を、例文を参考に書く技能を身に付けている。		

6. 単元計画（8時間扱い）

時	◆目標・○活動	評価			
		知	思	態	◎評価規準 ＜評価方法＞
1	◆身の回りのものの生産国についての概要を捉える。ゴールへの見通しをもつ。				
	○Small Talk「昨日食べたものについて」 ○導入 生産地・出身地を表す表現を知る。 （水のペットボトル、歴史上の人物等） ○先生のお道具箱の中身から「身近な世界」を紹介する。 ○Today's Goal「筆箱や引き出しなど、身の回りのものから世界を探そう。」 ○筆箱や引き出しから、身近な「世界」を探す。 ○本単元のゴールをつかむ。（先生のモデル VTR） Unit Goal 友達や5年生に「世界とつながるわたし」を紹介しよう ○【Listen and Think】（P48-49） ○【Let's chant】（P48） ○【Sounds and Letters】（P58） ○Reflection（振り返りカード）				* 本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を把握する。
2	◆身の回りのものの生産国についてのやり取りの表現に慣れ親しむ。				
	○【Let's Sing】（P48） ○身の回りの「世界」を知ろう（Power Point） ○Small Talk「文房具の生産地について」 ○Today's Goal「身の回りのものとその生産国について聞いたり答えたりしよう」 ○「食べ物の出身地クイズ」（Power Point） ○スーパーのチラシを使って、表現に慣れ親しむ。 ○My Time デジタル教科書で語句や表現を確かめる。 ○【Watch and Think】（P49） ○【Let's Read and Write】（P49） ○Reflection（振り返りカード）				* 本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を把握する。
3	◆オリジナルサンドイッチを考え、その食材と産地を伝え合ったり書いたりする。				

	○【Let's Chant】(P48) ○Small Talk「チラシから生産地・国について見てみよう。」 ○絵本の読み聞かせ『Let's Make a Sandwich』 ○Today's Goal「オリジナルサンドイッチを考えて伝え合おう」 ○【Let's Listen1】(P50) ○【Let's Try】オリジナルサンドイッチを考え、食材と産地をたずね合う。 ○My Time 語句や表現、モデル動画等を確認める。 ○【Sounds and Letters】(P58) ○Reflection(振り返りカード+ Google Forms)	聞 ① ② 話 や ① ②		◎〈技能〉①身の回りのものとその生産国についての表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身につけている。〈行動観察・振り返りカード〉 ◎【This is..., It's from..., It's in...国名 is in 地域、およびその関連語句】について理解している。〈誌面観察・振り返りカード〉
4	◆身の回りのものの生産国やその地域を調べて、例文を参考に書き、伝え合う。 ○Sit Down Game ○Small Talk「冬休みに行きたい場所」 ○Today's Goal 「身の回りのものの生産国やその地域を伝え合おう」 ○【Let's Listen2】やり取りを聞いて、T シャツの生産国を聞き取って書く。 ○先生たちの「世界とつながるわたし」を見る。(動画) ○【Let's Read and Write】身の回りのものの生産国と、その国が属する地域を調べて、記入する。 ○My Time 語句や表現、モデル動画等を確認める。 →動画に残す。 ○【Sounds and Letters】(P59) ○Reflection(振り返りカード+ Google Forms)	書 ① 聞 ①		◎自分たちと世界とのつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国についてのやり取りや短い話を聞いて概要を捉えている。〈誌面観察・振り返りカード〉 ◎身の回りのものとその生産国について伝えるための、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を理解している。〈誌面観察・振り返りカード〉
5 本時	◆友達や5年生に「世界とつながるわたし」を紹介するために、身の回りのものとその生産国について、表現を振り返ったり情報を整理したりして、より伝わるように工夫する。 ○Sit Down Game(Where do you want to go?) ○Small Talk「どこの国でも行ける券をもらったら行きたい国とその理由」 ○Today's Goal「より伝わるように工夫しよう！ 『世界とつながるわたし』」 ○教科書・教師の動画を視聴する。 ○聞き手により伝わるために工夫する。 ・ペアで前時の動画を見合い、アドバイスする。 ・My Time→伝えたい情報を整理する。(ロイロノート) ○友達とペアで伝え合う(1回目) ○友達とペアで伝え合う(2回目) ○Reflection(振り返りカード+ Google Forms)		話 発 ① 話 発 ①	◎「自分たちと世界とのつながりを伝えるために、身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて」、考えや気持ちなどを友達に発表している。〈行動観察・動画点検・振り返りカード〉 ◎〈同上〉、考えや気持ちなどを発表しようとしている。〈行動観察・振り返りカード・動画点検〉
6	◆友達や5年生に「世界とつながるわたし」を紹介するために、身の回りのものとその生産国について工夫して発表する。			

	○My Time→ 語彙や表現の確かめ、動画視聴等 ○友達とペアで伝え合う ○Unit's Goal 「より伝わるように発表しよう！『世界とつながるわたし』」 ○Sounds and Letters(P59) ○Reflection(振り返りカード+ Google Forms)	話 発 ①	話 発 ①	◎自分たちと世界とのつながりを伝えるために、身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを友達に発表している。〈行動観察・振り返りカード〉 ◎身の回りのものとその生産国についての表現を用いて、考えや気持ちなどを話す技術を身に付けている。〈行動観察・振り返りカード・動画点検〉
7	◆音声や映像を手がかりにして、日本と世界との交流の歴史などについて考え、日本と世界のつながりについて理解を深める。 ○Let's Chant ○前時に発表したことを、例文を参考に書く。(ワークシート) ○Sounds and Letters(P59) ○英語ドリル(ListeningとWriting) ○Reflection(振り返りカード+ Google Forms)	書 ②		◎身の回りのものとその生産国について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて、例文を参考に書く技能を身に付けている。〈誌面観察〉
8	◆映像や音声を手がかりにして、外国の子どものことやその国の特徴について考える。また、音声やイラストを参考にして物語を読む。 ○Let's Chant ○世界探検 ガーナの子どもたち ○文化探検 シルクロード ○物語探検 ○Reflection(振り返りカード)			①自分たちと世界とのつながりをよく知るために、日本と世界との交流の歴史などについて聞き取ろうとしている。

7 本時の展開(5/8時)

- (1)目標 友達や5年生に「世界とつながるわたし」を紹介するために、身の回りのものとその生産国について、表現を振り返ったり情報を整理したりして、より伝わるように工夫する。
- (2)主な表現 This is my ～. /It's from ～. / (国名) is in (地域).
 主な語彙 衣類、食材、文房具など
 期待する既習表現 I want to ～(eat, see, buy等). It is 感情/気持ち/感想 .
 I usually / always / sometimes ～. I like ～.
 I can ～.
- (3)準備 指導者用デジタル教科書…デ教、児童用デジタル教科書…児デ教、教科書(本)…教、My Picture Dictionary…MPD、学習支援ソフト…100、絵カード…絵力

(4)本時の展開

時間	児童の活動	指導者の活動と使用英語例	指導上の留意点・評価 〈○留意点 ◆評価〉
導入 5分	1 あいさつをする 2 Sit Down Game をする 3 Small Talk	Good afternoon, class. How are you? How's the weather today? What day is it today? What's the date today? Where do you want to go? 「どこの国でも行ける券を当たったら行きたい場所とその理由」教師と児童でやり取りをしながら進める。 Where do you want to go? I want to go to ~.	○英語で挨拶をし、明るい授業の雰囲気をつくる。 絵力 ○児童が負担なく活動に取り組めるようにする。 ○HRT と ALT で質問する。 ○既習表現を活用しながら伝え合えるように支援する。
展開 35分	4 本時のめあてをつかむ。 5 教科書・教師のモデル動画を視聴する。視聴後、ペア→全体で共有する。 6 聞き手により伝えるために工夫する。 ①前回の動画をペアで見直し、アドバイスし合う。 ②My Time	【Today's goal】 より伝わるように工夫しよう！『世界とつながるわたし』 動画を視聴し、「気付いたこと」「真似してみたいこと」などをペアで話合わせ、全体で共有する。 前回の動画を見ながら、お互いにアドバイスできるように視点を示す。 児童の実態に合わせて学習方法を提案する。 ・先生モデル動画を見る。 ・デジタル教科書やMPDで、語彙や表現を確認する。 ⇒ロイロノートのシートを使って、自分が伝えたい情報を整理する 〈期待する自己調整内容〉 【内容面】 ・情報を付け加える (つながり情報・Iメッセージ) ・自分のことや経験を入れる ・聞き手に問いかける 【言語面】 ・正しい表現になるように練習する	○本時のゴールを示すだけでなく、単元のゴールを再確認し、目的意識・相手意識を意識づける。 ○次のアドバイス活動の視点になるようにする。 ロイロ ○既習表現を付け加えるなどの視点を確認する。 ロイロ ○Google Forms アンケートの振り返りより、困り感をもっている児童を中心に助言や指導をする。 教 児デ教 ロイロ MPD ○教師は、児童のつばやきや取り組みをクラスに広める。

	③ひとり言タイム 7 友達とペアで伝え合う（1回目） 8 中間指導（中間評価） 9 ひとり言タイム 10 友達とペアで伝え合う。（2回目） ➡録画をする。	ペアで伝え合う前に、ひとり言タイムを設ける。 前時と同じペアで伝え合わせる。友達とよりよい表現について相談する。 言いたいけど何と伝えればいいのかわからない表現、児童の困り等をクラスで共有し、みんなで解決できるようにする。 中間指導後、改めて表現を確認したり、練習したりする時間を設ける。 別のペアと伝え合わせる。 伝え合ったペアは、自分で動画撮影をするように促す。	○HRTとALTは机間巡視しながら、表現のアドバイス等をする。 ○教師は、机間巡視をし、児童の様子を観察する。 ○中間指導で意見が出なかった場合は、机間巡視の際のつぶやきや、児童のよい表現等を取り上げる。 ○HRTとALTは机間巡視しながら、表現のアドバイス等をする。 ◆「自分たちと世界とのつながりを伝えるために、身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて」、考えや気持ちなどを友達に発表している。〈行動観察・動画点検・振り返りカード〉 ◆〈同上〉、考えや気持ちなどを発表しようとしている。〈行動観察・振り返りカード・動画点検〉 ※評価については本時の練習動画を記録し、次時の発表の様子と比較しその変容も評価の参考にする。 〈評価規準〉 A 身の回りのものとその生産国について詳しく説明したり、自分の考えや思いを伝えたりしている。 B 身の回りのものとその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝えている。 C 「B」を満たしていない。〈「努力を要する」状況 Cへの手だて〉 My Timeで表現を選択できるようにヒントカードを用意する。
まとめ5分	11 本時のまとめをし、活動を振り返る。 12 あいさつをする	児童とまとめを共有する。本時の振り返りを、Google Formsと振り返りカードで行う。 明るいあいさつをする。	○活動に対して、良かった点やより良くなる点についてフィードバックする。 ○次時の予告をし、単元のゴールへの意欲をもてるようにする。

(5)板書計画

Dairy Questions	Unit's goal		
	Today's goal		
Today's Menu	より伝わるようにするため		This
	It's from (国名).		
	(国名) is in (地域).		

8 備考 在籍児童数：○人